

特集

# 受賞者に聞く。

遠山賞 受賞者の企業経営



No.217 / 平成 16年受賞  
ニッシンテクニクス 株式会社  
代表取締役  
丹羽 要氏  
(第18青経塾)

## 得意分野を活かす

「自動車盗難防止に無くてはならない部品」ハンドルロック用ロックバー」国内 60%以上のシェアを誇る自動車関連部品メーカーニッシンテクニクス株式会社。

「自動車関連が良くなってきたこともありますが、やはり環境の占める割合は業績に大きく影響されます」と社長就任後業績を着々と伸ばしてきた丹羽氏は言う。とはいえ国内シェア 60%以上にまで拡大したその経営の基とはいかに。

丹羽氏は今から 10年前の 1999年、会社設立 30周年を期に、ニッシンテクニクス株式会社に社名を変更。と同時に創業者でもある父から会社を受け継いだ。社長就任のきっかけをこう語る。

「その頃中部経済新聞で二代目継承者としてインタビューを受けました。これからどうおきたいかなどビジョンが明確になると既成事実のような形で社長である父に受け入れてもらえましたね」「得意分野を活かす」。このインタビューを機に明確となったビジョンに基づいた手段を模索。まずは自社が誇れるもの「切削」「プレス」「冷間圧造」「複合化」に着目。これらを研ぎ澄ましていくことにより改善・合理化・可能性を追求していった。

業績アップの成果に繋がったもうひとつの要因。それは社員が達成する喜びを知ること。「自ら思考し、行動し、成果をあげる人材」を目標に、数値目標を掲げ全員が経営者意識をもって仕事に取り組むという社風を確立した。

丹羽氏はこれらをひとつずつ着実にやり遂げてきた。そしてグローバルなニーズに応じて昨年タイに製造拠点を確保。さらなる可能性を世界に求めている。今後を見据えた丹羽氏の志は高い。遠山賞受賞の際に塾主もおっしゃっていた様に、丹羽氏の改善に改善を重ねる粘り強さは群を抜く。飛躍のチャンスをもたにするためにその気質は必要不可欠だと痛感した。

(第3青経塾 小濱敬子)

## 自分自身を信じる力こそ、前進の力

「青経塾との出会いは私が2歳の時、当時は父が病で倒れ、会社も左前の状態。全くそれどころではありませんでしたよ」と笑いながら当時を語る水野氏だが入塾後、塾主にお会いし「あなたの夢は?目標は?」の問いに何も答えられない自分自身が悔しくて、10年後の目標を作った。

それ以来、塾での学びを実践し現在、入塾当時の売上げの何と4倍、43億の会社にまで成長させた。「成長の秘訣は?」との問いかけに対し、「運だけだよ」と応えながらも、「明確な目標をつくり、それを如何に細分化し、行動に移すかだね」と教えていただいた。「12時ちょうどに、ラーメンが食べたかったら、15分前にはヤカンでお湯を沸かすでしょ。同じ事ですよ、何も難しいことではない」と言い切る水野氏の、当たり前のことをけた外れの情熱でやける、素晴らしい行動力の結果だと実感する。「必ず出来る」と自分自身を信じる力が人を動かす、結果を創るのだと。

また「心に決めたことでも口に出さないと、出来ないんです。塾ではそんな立場を頂いた」と感謝と共に、30塾卒業式での決意表明を振り返る。「10年後にはこの会社を売上げ200億に成長させ、社員の中から5名の社長を輩出させます」と今後の目標を語る、水野氏の思いは深く熱い。

取材を通して終始にこやかな笑顔の奥には、実績に裏付けされた自信が輝く。水野氏の人間性の魅力にふれた貴重な一日となった。(第3青経塾 加藤忠)



No.169 / 平成 11年受賞  
大平産業 株式会社  
代表取締役  
水野雅之氏  
(第30青経塾)